

月別概況（平成29年）水産

1月

生鮮水産物

1 kg当たり平均単価 796 円

一般近海及び小釣物では、トラフグ、クエ等高級魚の動きが悪いが水揚げが少なく高値保合、後半ヤケ水揚げ増、サワラ入荷安定、弱保合。青物では、サバは、千葉等、県外からの入荷が安定していたが、価格は安めだった。アジ系統は、入荷少なめ、サワラ、サゴシは、地物の入荷があったが価格は、低めだった。養殖物では、ブリ、ハマチ、カンパチ浜値保合、売りも保合。太物では、ヨコは、長崎等からの入荷が多く値は、保合、ビン、カツヲは、入荷少ない。トンボ宮崎から入荷多く値は、安保合、キハダ後半値軟調。

冷凍水産物

1 kg当たり平均単価 1,010 円

東南アジア近海甲イカ類の漁模様が悪く買付価格は上がる一方となっておりこのまま状況が好転しなければ、高値でも、思うような買付が出来ず欠品を避けられない商品も出てくると思われる。

加工水産物

1 kg当たり平均単価 659 円

和田島の漁は、1月と2月前半まで休漁。前半に橘で漁が少しあり値は、やや高値。イカナゴは、今年も少ない。

2月

生鮮水産物

1 kg当たり平均単価 762 円

一般近海及び小釣物では、悪天候続き水揚げ入荷減、サワラ強保合、アオリ入荷少なく強保合、高級魚の動き悪い。平日メイタ類ヤセ多く安値続く。青物では、平サバは、県外からの入荷があり価格も高めだったが月後半になるにつれて値が下がっていった。ゴマサバの入荷ほぼなし。アジ類は、県内からの入荷があり強保合、イワシは、県外からの入荷があり保合。養殖物では、カンパチ相場、浜値安定、ブリ、ハマチ在池数昨年より1割強少ないので浜値上昇傾向売り追いつかず。太物では、ヨコは、高知からの入荷が主で値は、1入で、1800～2000円ほどだった。ビンが鹿児島から入荷し値は、安値、トンボは、高知、宮崎から入荷安定。

冷凍水産物

1 kg当たり平均単価 851 円

有頭無頭ブラックタイガー、バナメイ共に量販サイズが高値安定、国内在庫品薄の為特売では使いづらい商材になりつつある。

加工水産物

1 kg当たり平均単価 649 円

いかなごは、香川と淡路がほとんど漁がなかった。新子は前半に香川があり値は、去年の倍ぐらいになった。

3月

生鮮水産物

1 kg当たり平均単価 718 円

近海及び小釣物では、悪天候多く入荷減、タコは入荷安定で高値保合、前年より水温低く南部赤物など水揚げ減、定置は後半までスズキ多く弱保合、後半少しづつ鯛が安定してきた。青物では、サバ系は県内外からの入荷が安定していて値も保合。サワラ、サゴシは荷少なく強保合、アジ系は入荷があまり安定せず値の高低差があった。ブリは7～9 kg台の入荷があり値も安定していた。養殖物では、ブリ、ハマチ在池数昨年より1割強少ない。浜値上昇傾向売り値上昇売れ行き悪し、カンパチ浜値売れ行き保合、シマアジの浜値下がり傾向なので売れ行き堅調。太物では、ヨコの入荷が少なくなり値も高値、カツヲの入荷が多くなり、高知、鹿児島、宮崎からの入荷があり値はまちまちだった。

冷凍水産物

1 kg当たり平均単価 951 円

今年度、北海道噴火湾帆立水揚げ数量2万tを割り込む予想。製品についても先々の品薄欠品が確定的で漁料事情により価格大幅な値上げになる。

加工水産物

1 kg当たり平均単価 353 円

和田島は漁がなく淡路と香川のいかなごがあり昨年に比べ漁が少なく高値安定。

4月

生鮮水産物

1 kg当たり平均単価 776 円

一般近海及び小釣物では、前年同様悪天候多く水揚げ減。定置タイ、スズキ、チヌ水揚げ多く値弱安定、サワラ水揚げ有無の差が激しく値不安定。青物ではサバは、三重、千葉からの入荷が安定していたが、値が非常に安かった。アジ系は地物の入荷が安定、価格の上下が大きかった。ブリの値はかなり下がっている。サワラ、サゴシは入荷少なかった。養殖物では、ハマチ、カンパチ共に浜値上昇、ハマチ3年魚無くなった為、例年よりは早く2年魚へ切り替わり。太物では本ヨコ入荷減り、値は高かった。ピンは高知、鹿児島からの入荷が主で、値は安かった。カツヲは入荷が増え安値が多かった。

冷凍水産物

1 kg当たり平均単価 857 円

輸入鰻加工品は昨年同時期と比べ替為が約10円程度違うので、割高となり国産品は、シラス鰻も前年ほど確保でき、価格も昨年と比べ安価なので加工品にも反映され今夏は、国産

中心の売場づくりが予想される。

加工水産物

1 kg当たり平均単価 276 円

和田島のちりめん漁はまだで、椿泊では、少しちりめん漁があり、値は例年より高値。

5月

生鮮水産物

1 kg当たり平均単価 708 円

近海及び小釣物では、クラゲが多く全体的に水揚げ減、スズキ入荷安定、釣り定置物高値安定、鰹入荷少なく高値保合。青物ではマサバ、ゴマサバ共に県外からの入荷が安定していた、平アジは地物の入荷があり価格も安定。サゴシは愛媛、京都、富山等県外からの入荷があり価格も高い、イワシ系は県外からの入荷価格は安値。

養殖物では、ハマチ、カンパチ共に浜値堅調、売れ行き保合。太物ではヨコは入荷少なく高値安定。カツヲは入荷多く主に高知から安定して入荷があった。値は、安値が続いた。

冷凍水産物

1 kg 当 た り 平 均 単 価 869 円

アメリカ産大型サイズのタコ原料が高騰している。漁獲量が大幅に減少し、昨年よりキロ辺り 200 円 UP している。7月より製品単価で 300 円/UP する。北海タコも高騰している。

加工水産物

1 kg当たり平均単価 309 円

前半から和田島のちりめん漁がとれ出し、値も高値安定。後半は少し漁が減り、値は前半同様高値だった。

6月

生鮮水産物

1 kg当たり平均単価 750 円

近海及び小釣物では、タコ入荷安定で保合。鰹水揚げ少ないものの全国的に安値続く、場内売りは高値安定。青物では、サバは県外からの入荷が安定していた。月後半になるにつれてゴマサバの入荷が増えてきた。アジ系は地物や県外の物があり価格も安定していた。サゴシは京都、福井等の入荷があり、値は保合。養殖物ではハマチ浜値上昇、サイズも 3 K 台の為売れ行き悪し、カンパチは浜値売れ行き堅調、ウナギ売れ行き好調。太物ではヨコ、メジは北海道からの入荷が主で安定、ピンは高知からの入荷が主で保合。カツヲは高知、宮城からの入荷が主で小さいサイズは値崩れ安値続く。

冷凍水産物

1 kg 当 た り 平 均 単 価 921 円

冷凍ズワイガニは、年末に向けて各量販店との商談も活発となるはずがロシア産は活で中

国、韓国へと出荷されており、日本向けのオファーが取りづらく買付が非常に難しくなってきたおり、価格を掲示しにくい現状である。

加工水産物

1 kg当たり平均単価 301 円

和田島のちりめんは、昨年より多く漁があった。値は前半が高く後半は品物が落ち安値であった。

7月

生鮮水産物

1 kg当たり平均単価 888 円

近海及び小釣物では、タコ入荷安定保合、鰹入荷前年より減、京都・大阪安値続く、徳島売り高値安定。青物では、マサバ・ゴマサバは夏になりゴマサバの入荷が増えてきた。三重、高知、愛媛等県外からの入荷があり値は安定していた。ツバスは鳥取、島根から入荷があったが値が高くセリになると価格が大幅に下落。サワラ・サゴシはほとんど入荷なし。養殖物では、ブリ・ハマチは、在池数が昨年よりだいぶ少ない為、値上がり傾向、カンパチは安定。

冷凍水産物

1 kg当たり平均単価 1,092 円

バナメイえびは国内在庫もあり価格は安定しているがブラックタイガーは有頭、無頭共に中国他に日本が買い負けている為、搬入は不安定になっており相場は上昇している。

加工水産物

1 kg当たり平均単価 450 円

和田島のちりめんは、昨年に比べ3倍位の漁で単価も前半は高く後半は少し安くなった。

8月

生鮮水産物

1 kg当たり平均単価 912 円

近海及び小釣物では、鰹水揚げ前年より減、京都大阪本場より徳島高値。タコ入荷安定保合、サワラ水揚げ多く弱保合、ポーゼ水揚げあるがサイズ小さく安値続く。青物では、マサバ、ゴマサバは夏になりゴマサバがメインになった。ゴマサバは愛媛、三重など県外からの入荷があり値も安定。サワラ、サゴシの入荷はほとんどなかった。イワシは北海道、三重などから入荷。養殖物では、ブリ、ハマチ、先月に続き浜値上昇、売値ついていけず。カンパチ安定。太物では気仙沼のカツヲ漁が本格的になり四国内のカツヲの水揚げがお盆まで少なかった。長崎(対馬)北海道、青森より本ヨコ4-6kg入荷あるが入荷量少なく高値保合。ビンヨコは鹿児島、千葉中心に入荷。カツヲは気仙沼主体に長崎、三重と潤沢に入荷した。

冷凍水産物

1 kg当たり平均単価 1,044 円

7～8月の鰻蒲焼の売場づくりは予想通り昨年よりも安価な国産中心の売場づくりとなった。中国産に関しては、品種の取扱いが一番と厳しくなりジャポニカ種、D ストラータ種（アムノカ）中心となった。

加工水産物

1 kg当たり平均単価 397 円

和田島のちりめんは前半は少しあったが、お盆すぎから少なくなった。サンマは形が小さく値は、昨年より高い。

9月

生鮮水産物

1kg 当たり平均単価 842 円

近海及び小釣物では、サワラ、ポーゼ入荷安定保合、鰹入荷前年より減、京都、大阪安値続き、徳島は高値安定、タコ入荷量相場共に安定。青物ではサンマのサイズが小さく入荷量も少なめ浜値高く動き鈍い。まだまだマサバの数は少ない、ゴマサバがメイン。北海道からのイワシも出始めより少しやせた様子。養殖物では、カンパチ安値安定、ハマチ、ブリ、タイ高値安定、相場感悪く動き鈍い。太物では北海道から小マグロ7～9 kgサイズ入荷多く値崩れおこす、高知よりビンヨコ5 kg以上の物が多く弱含む、宮城気仙沼カツヲ、水揚げ少なくなり高値続く。四国沖では、小カツヲが多く2入3 kgサイズ200円～300円と暴落した。

冷凍水産物

1 kg当たり平均単価 865 円

全国的に地物タコの水揚げが少なく高値安定。アフリカタコ、中国タコも水揚げが少なくヨーロッパとの買い負けで年末に向けて毎月大幅値上げになっている。

加工水産物

1kg 当たり平均単価 433 円

全国的にちりめんの漁が少なく高値。サンマ漁も形が小さく高値。

10月

生鮮水産物

1kg 当たり平均単価 831 円

一般近海及び小釣物では、台風、大風、祭り等多く出漁目が少なく水揚げ減、ポーゼ入荷安定強保合。鰹入荷安定保合、タコ入荷減強保合。青物では、サンマのサイズ漁獲量ともに例年よりも悪く浜値が高い状態が続く。40 g程の豆アジが多く需要のある70～80 gの小アジの水揚げが少なかった。サバ類も400～500 gが主体で小さい物が多かった。養殖物では、カンパチ安値安定、売り低調、ハマチ、ブリ浜高値安定、売り低調、タイ共に

低調。太物では、本よこ類は地元徳島産入荷安定し保合。びんよこは鹿児島、勝浦主体の入荷だが水揚げ少なく浜値高続くも売りがついていかない、かつをに関しても気仙沼が早々に漁期終了し、品薄状態で高値続く。

冷凍水産物

1kg 当たり平均単価 984 円

冷凍ズワイガニは、昨年より2割以上高く、荷動きは鈍いようだ。新物トラバガニは、漁獲枠は昨年度比で22%減となっているが越年在庫もあり価格は下がる見込みである。

加工水産物

1kg 当たり平均単価 408 円

和田島のちりめん漁は少なく値は高い。紅鮭は少なく銀鮭は横ばい。秋鮭が少なくいくらか高騰している。

11月

生鮮水産物

1kg 当たり平均単価 732 円

一般近海及び小釣物ではトラフグ、クエ等高級魚水揚げ減、丸・長ハゲ入荷安定高値サワラ入荷安定安値保合。青物では、県内、県外共に入荷安定保合、アジ類は日本海県内入荷安定、値は下落。サワラ日本海からの入荷は安定するが、値は安くなっていた。養殖物では、ハマチ、ブリ浜値若干下げ傾向、売りは天然が豊漁の為、動きはにぶい。カンパチは前月同様安値安定。太物では九州、対馬、五島各地で釣り、養網のヨコの入荷始まる。釣り800～1500円、巷網800～1100円、釣り3kg1000～1200円の相場。高知、佐賀、清水でも2～3kgの小さな本ヨコが多く入荷し安値安定。 冷凍水産物

物

1kg 当 た り 平 均 単 価 1,108 円

ブラックタイガーは、有頭、無頭共に高値安定。天然有頭海老も搬入が減少しており、年末商材のアイテム不足感が出ている。

加 工 水 産 物

1kg 当たり平均単価 473 円

昨年よりちりめんの漁は少なく高値。鮭といくらは昨年より2～3割高い。

12月

生鮮水産物

1kg 当たり平均単価 855 円

一般近海及び小釣物では、トラフグ水揚げ減で高値保合。タコ入荷安定保合。クエ入荷安定高値保合。ホーボー、ハゲ類等、鍋商材高値。青物では、サバは県内外からの入荷安定、

平アジは県内からの入荷安定で保合、イワシ入荷は安定してないが保合、サワラ、サゴシは日本海からの入荷安定で保合。養殖物では、ハマチ、ブリ浜値下げ気味、売りは年末に向けて回復傾向、カンパチ浜値売り共に動き鈍い。太物では、長崎・福岡・高知各地から本ヨコ定置、釣り含め入荷は安定しているが浜値強く 1,800~2,200 円あたりで動く、ビンヨコは入荷少なく水揚げがない状態が続く、かつをは 2 kg、1.5 kg サイズ中心で水揚げ少なく高値続く。

冷凍水産物

1 kg 当たり平均単価 1,169 円

鰻はシラス鰻漁前半として過去最低数字で今年の夏は、高値が予想される。

加工水産物

1 kg 当たり平均単価 581 円

数の子は昨年より多く値は少し安値。秋サケは高値。いくらは昨年より 2 割高い。